

# 全国連盟通信

第30期 No.3  
2012年12月25日  
発行責任者  
和食昭夫



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: cbf31680@pop02.odn.ne.jp URL <http://www.njsf.net>

つなごう 支援の輪

## 2012年が暮れ、2013年が明けます

新日本スポーツ連盟会長 永井 博



12月8日～9日第3回理事会を行いました。今回の理事会の主要な目的は、2013年2月23日～24日に開催する第30期第1回評議員会に提起する議案を準備することでした。具体的には、東北復興支援第29回全国スポーツ祭典の総括、スポーツ活動の豊かな発展と組織強化、機関誌「スポーツのひろば」の普及と定価改定の検討、2015年の連盟創立50周年記念事業の具体化などの課題について検討し、評議員会に向け議案として準備することとなりました。理事会の討論をうけ、さらには新年を迎える今日の局面にたって、今後の連盟の役割と課題について触れたいと思います。

私たちは2012年の年の瀬を、東北復興支援第29回全国スポーツ祭典の開催種目16種目中15種目(スキー競技大会は来年3月開催)が終了した時点で迎えています。

第30回全国総会決議は、第29回全国スポーツ祭典に関して「被災地のスポーツ復興を支援する場として成功するよう全力をあげて取り組みます。東日本大震災からの復興は、暮らし、住まい、地域の再生など、いずれもこれからが正念場です。被災者の心に寄添った支援を途切れなくすすめる象徴として、この全国祭典を成功させること」を呼びかけました。

第29回全国スポーツ祭典は、「深めよう絆！スポーツは生きる力」のスローガンの下、全国各地の開催都府県のスポーツ連盟と全国種目組織のみなさんの気持ちが一つになって、このよびかけが受け止められ東北復興支援という共通課題を果たし、大きな成功を収めたと思います。お互いに、それぞれの奮闘・努力をたたえあいたいと思います。

私たちは、この成果・成功を、先ず来年2月の評議員会に、続いて2014年の第31回全国総会と第30回全国スポーツ祭典に、さらに2015年の創立50周

年の記念の年へと引きつぎ、発展させねばなりません。そのためにも、来年2月の評議員会を、関係者すべの力で成功させることが重要になるでしょう。

さて、みなさん。12月17日(月)の『朝日新聞』朝刊の1面には、「自公320超 安倍政権へ」「民主、壊滅的敗北」「維新、50議席超す」などの言葉が、大書されています。16日に投開票された第46回衆議院議員選挙の結果報道です。

私たちは、こうした選挙結果が生まれた中で、2012年の年の瀬を迎えています。予想される政治日程でいえば、12月26日に安倍自公連立内閣が誕生し、年明けとともに本格始動するでしょう。スポーツ施策の展開は、どのようなものになるのか、注視せねばなりません。

こうした情勢にあつて、私たちが思いを致すべき第1は、「スポーツは万人の権利」と宣言した、スポーツ連盟創立の基本理念・初心です。以来一貫して国民のスポーツ権実現のために、活動してきました。その中で、国民のスポーツ権を体現した「いつでも、どこでも、だれもがスポーツを」「スポーツ きみが主人公」「スポーツは平和とともに」などのスローガンを生み出してきました。これらのスローガンは、今日、広く国民の間に積極的に受け止められています。

こうしたスポーツ分野における国民的な意識の成熟が大きな力となって、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」と国民のスポーツ権を明記したスポーツ基本法を誕生させたということが、第2です。

スポーツ連盟の基本理念とスポーツ基本法。この二つの共有すべき価値の上に屹立し、政治展開と軌を一にするであろうスポーツ施策の展開を分析し課題をあきらかにして、わが国のスポーツの民主的、平和的発展のために、みんなの知恵と力を出し合っ

## 第30期第3回理事会の報告

第30期第3回理事会は、12月8日、9日の2日間、東京都新宿区の日本勤労者山岳連盟事務所及び豊島区の帝京平成大学集会室で開催されました。本理事会では、第30期第1回評議員会を展望し、2012年3月の第30回全国総会後の活動の総括と2013年度の重点方針と計画を検討しました。出席は、理事33名と会長・副会長3名でした。また、最後に学習会を開催し「原発ゼロは可能か？－日本のエネルギー政策のあり方について－」を学びました。

### 【第29回全国スポーツ祭典中間報告】

萩原祭典事務局長より状況報告があり、質疑の後、各大会へ参加した理事からの報告がありました。6ページ参照。また、12月25日付で『ニュースVol.5』が発行されましたので、ご覧ください。

### 【第30回全国スポーツ祭典】

2014年度の第30回全国スポーツ祭典は、「陸上」「水泳」を除いて東海4県で開催することを確認し、評議員会で決定したのち、全国種目組織との調整を経て開催地・会場を決定していきます。

### 【スポーツ活動・組織局】と【スポーツ権・平和運動局】

の活動総括と2013年度の活動については、4ページを参照ください。なお、2013年の広島での「スポーツ懇談会」と反核平和マラソン広島集会の企画を連動し、スポーツ活動・組織局とスポーツ権・平和運動局が協働して取り組んでいきます。

【国際活動局】の活動のまとめと2013年の方針は、5ページを参照ください。なお、国際活動交流運営規定（案）について《新日本スポーツ連盟国際交流に関する規定（案）》が議論され、評議員会へ提案する運びとなりました。

【広報局】主として、『スポーツのひろば』誌の普及活動と価格改定について議論しました。1月末までを普及月間とし、1・2月号を使って購読を訴えることを決定しました。また、新規購読者290円のキャンペーンは2013年度も続けていくことを確認し、評議員会へ提案することになりました。

### 【総務局・その他】

2013年度傷害見舞金制度について、補償内容の充実要求に応える方向で改定案を検討し、評議員会に提案します。

2013年スポーツセミナーについて、9月28日（土）～29日（日）で岩手県盛岡市・御所湖を中心に開催していきます。

リーダー養成委員会は、教本改善と理事・評議員を対象に講座を継続、都道府県・種目組織に活用できるDVDの作成に取り組みます。

スポーツ科学研究所準備委員会は、2014年秋の正式発足をめざして、評議員会に、日程、予算、体制など必要な資料を準備します。

「創立50周年記念事業の全体構想について」3ページ参照

「2020年オリンピック・パラリンピック東京招致について」7ページ参照

国民の多様なスポーツ要求実現とスポーツ権の確立をめざす社会的な運動の一環としての各種選挙活動に取組む方針について(案)を初めて論議しましたが、拙速をさげ、評議員会には材料提供とし、継続審議していきます。

2013年度修正予算案、その他を検討・確認し、終了しました。

## 創立 50 周年記念事業の全体構想について

新日本スポーツ連盟は、「新日本体育連盟」の名称で「スポーツは万人の権利」の実現を掲げ創立して以来、2015年11月12日、50周年を迎えます。この歴史的な記念すべき日に向けて、スポーツ連盟の活動と組織の強化とともに、50年にわたる多面的で豊かな活動を連盟内外にアピールする記念事業にとりくみます。その基本的な構想を評議員会に以下のとおり提案し、評議員会の意見を受け4月に予定する第5回理事会で決定します。

### 1、創立50周年記念事業の目的と方針・計画の基本

- ①記念事業は、50年間の歴史的到達点をすべての連盟組織の共通の確信とし、新たな前進の展望と意欲を引き出すものとする。
- ②可能な限り、クラブ・チーム、地方連盟、種目組織などが「参画する」取り組みにする。
- ③財政的に絶対に「赤字」を出さない収支予算を立て執行する。

### 2、事業の内容と実施・執行の予定

- ①「新日本スポーツ連盟50年史」(仮題)を2015年夏を目途に作成する。書籍版とDVDの両方を作成することを想定してすすめるとともに、「資料」のデータ化を行い、可能な範囲で公開し活用できるようにする。
- ②国際シンポジウムを開催する。主なテーマは、「人権・平和とスポーツ」「21世紀のスポーツと社会」などを想定し、開催時期については、2015年8月、被曝70年の東京～広島～長崎

反核平和マラソンとセットで広島で開催する案、2015年11月の創立記念日前後に、記念レセプション、評議員会とのセットで東京で開催する案の2案を評議員会に提起し検討する。

③被曝70年東京～広島～長崎反核・平和マラソンを2015年8月27日～8月8日(予定)に開催する。開催方式は前回の教訓を生かし、本隊とそれを支える通過ブロック主管方式を基本とする。海外代表については、FSGT、韓国体育の代表1名を東京～広島～長崎に招待する。なお、これとは別に、広島～長崎には、FSGT、韓国体育市民連帯の代表3人程度を招待し、UISP、CSITなどには自費参加を条件に参加をよびかける。

④2014年11月を目途に、スポーツ科学研究所を設立する。そのための予算や体制を含む実行計画について、準備委員会の全国総会後の進行状況について評議員会に提出する。

⑤顕彰を行う。長期にわたって、スポーツとスポーツ連盟の発展に寄与してきたクラブ・チーム、連盟組織、個人の業績をたたえ顕彰を行う。そのための顕彰委員会をもうける。

⑥記念レセプションを2015年11月7日(土)か14日(土)、東京で行う。

⑦記念グッズの作成と販売を検討する。

### 3、その他

①執行体制と各事業の予算について、2013年4月の理事会で作成する。

②50周年に向けたスポーツ連盟の活動と組織強化に関わる課題と目標は、第30回全国総会方針を基本とし、評議員会において必要な補充を行う。

## スポーツ活動・組織局 2013 年度の活動の重点 (スポーツ活動・組織局 北川 登)

2012 年度の活動は、各種目で積極的に出前大会と空白地域の克服をめざして取り組まれた。その中で、ブロックの共同の力の発揮、全国種目と県連盟との協力など連盟全体の力をより発揮していけば、県連盟の確立など大きな運動にしていける道筋が示された。2013 年度は、このような発展の芽を大きく花咲かせる年にしていく。

1、スポーツ懇談会の具体化 ー新しい県連盟の確立をめざしてー

昨年も十分展開できなかった県連盟づくりを展望した「スポーツ懇談会を」を青森・福島・群馬・広島・熊本で展開していく。

2、出前大会の発展

今年の空白組織対策費が、予算通り使われるなど、出前大会を増やすことができた。来年は、卓球、ウォーキング、ミックスバレーボール以外の種目でも大いに挑戦していく。

特に、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、野球で、最低1地域以上で空白地域での開催をめざす。

3、組織拡大交流会議について

従来の全国集中型の組織拡大交流会議でなく、上記1の連盟つくりと連携して、その重点地域ごとの関係者の集まりを重視していく。

その典型として、広島での「スポーツ懇談会」を反核平和マラソンの関係者も含めてさらに幅広いスポーツ関係者が集えるよう計画していく。

## スポーツ権・平和運動局の 2013 年度活動方針 (スポーツ権・平和運動局長 青沼裕之)

1. 国民のスポーツ権実現とスポーツの民主的な発展をめざす活動を進める

昨年、大阪市と神奈川県で唐突に打ち出された緊急財政対策と称する住民無視の公共施設の大幅削減計画に対して、神奈川県連盟と大阪府連盟を中心に広範なスポーツ団体を含む各種団体と協力・共同して、かつスポーツ基本法の理念に基づいて、削減計画撤回を求める運動を精力的に展開する。また、こうした公共施設削減計画が他の自治体に飛び火してゆくことが考えられるので、常に情報をキャッチして機敏に対応する。

今年度も、引き続きスポーツ基本法および地域スポーツ推進計画に関する学習・討論会の開催に向けて、各都道府県連盟および種目別連盟とともに取り組みを進める。

スポーツ基本法の理念と各条文を活用して提案型のスポーツ施設建設・改善要望書を国及び各自治体に提出し懇談の場を設ける努力をする。要望書項目のマニュアルの作成、局ニュースの発行を検討する。

2. スポーツ分野の反核・平和の取り組みを一層ひろげる

第1に、2013年の国民平和大行進に取り組む。

第2に、反核平和マラソン広島集会の企画と開催準備を進める。

2013年度はフランス・韓国の代表団が参加しないこともあり、この催しを盛り上げるために、以下の2つの提案を盛り込んだ広島集会としたい。第1は、各地域での反核平和マラソンへの新たな取り組みを激励する場にする事、第2は、在日外国人にも呼びかけること、第3は、中国・四国・九州等での県連盟結成、とりわけ広島県連盟結成に向けた支援と激励の場にする事、である。第3の点については、スポーツ活動・組織局と相談の上進める。

3. 2020年五輪招致問題への対応／韓国体育市民連帯主催の国際シンポジウム(8月12日)企画／「原発ゼロの社会をめざす」活動の展開

## 国際活動局 活動のまとめと 2013 年の活動方針 (国際活動局長 伊賀野 明)

1、2012年の国際局活動は、①前半は2012年広島・長崎反核平和マラソン(全国連盟・福岡実行委員会・全国RC共催)への外国代表招待を成功させること(FSGT7名内3名はFSGTの費用負担と韓国市民連帯3名・韓国9条の会1名)②後半は、国際交流規定の具体化とCSIT(国際勤労者・アマチュアスポーツ連盟)への加盟検討が主な取組でした。

2、反核平和マラソンに関しては、その財政決算の報告(福岡関連での赤字補填のために、全国会計では64,224円の赤字)で、これは、承認されました。

3、国際交流活動運営規定については、提案文言中必要な字句修正の条件で承認されました。国際交流活動に関して、全国連盟と各組織との調整と統一性を図る目的で決めるもの。

4、2013年の交流予定は、全国スキー協による2月の全国スポーツ祭典スキー競技大会へのFSGT招待3人、5月の全国RCによるFSGTツール・ド・ペイ・ユーマラソンへの派遣5人、新たな展開とし

ては4月の神奈川RCによる横浜ビビチタ4回開催を踏まえてのイタリアUISP招待計画の紹介がありました。なお、CSITからは第3回ワールドスポーツゲームズの招待状がありましたが、仮登録が11月末なので、招待があった報告に留めます。

5、CSIT加盟検討については、先方への照会を経ての加盟申請手続き、加盟申請にあたっての財政課題、加盟のメリット・デメリット両面からの検討に関して、規約なども含めて「検討」のための第1次資料を別冊として概略報告しました。本格的な議論は、加盟に関する共通認識を得ることを目標に4月の第5回理事会以降で行い、議論を継続します。

6、在日外国人卓球交流は12月15日江東区で開催されました。これには日本語学校の中国、韓国、ベトナム人学生を含め総勢15名が参加し、初心者からベテランまで共に汗を流しました。練習後の昼食懇談会の感想では、「楽しかった」「バスケットもしたい」「政治では争いがあるがスポーツ交流が大切」等が話され、草の根での国際交流となりました。

## 『スポーツのひろば』普及月間(2012年12/12~2013年1/31)

この1年間の普及活動では、新規に195人のあらたな読者を増やすことができました。これは各都道府県連盟のひろばを増やす取り組み努力と、価格を290円にした事による結果です。しかしながら、スポーツ連盟の機関誌として『スポーツのひろば』を都道府県連盟所属のすべてのクラブ(3,660クラブ)のなかに最低1人の読者をつくる目標から見れば、初歩的な到達点にとどまっています。

されど、この間の普及活動と定価290円の効果は近年最高の成果をもたらしています。

つきましては、今日から~1月末までを普及月間とし、1・2月号を使って購読を訴えましょう。各都道府県連盟へ、クラブ・チーム数の購読部数になるように無料普及誌を送付致します。すべての連盟組織が、クラブに最低1人の読者実現にチャレンジしましょう。

また、全国役員・理事・評議員が、率先して取り組んでいただけますよう、お願い申し上げます。2月の評議員会までに、更なる可能性を見出していきます。

## 東北復興支援第29回全国スポーツ祭典(中間報告)

### 「東北復興支援」の輪が広がる

全国各地に広がって開催された「東北復興支援第29回スポーツ祭典」は、これまでに16種目のうち15種目が終了しています。震災によって東北ブロックでの全国祭典が困難になった中でも、ソフトボール大会を福島県、卓球大会(一般)を青森県、サッカーを宮城県、そしてこれから開催されるスキーが岩手県でそれぞれ開催された(る)ことには、そのことが「東北復興支援」の絆を深めた取り組みになりました。

全体としては、東北地方からの選手、チームへ支援として、「消せるボールペン」を普及して、参加費補助にあてることを取り組みました。その結果、15000本を超えるボールペンを普及することができ、150万円を超える支援金が捻出されました。東北から出場された選手、チームは、陸上競技大会36名、卓球大会(一般)38チーム・129名、

### 「出前大会」で予選開催の努力

全国卓球協議会は、全国スポーツ祭典に向けて、18の都道府県大会に加えて、23の空白県で「出前大会」を開催し、青森県(一般)、岡山県(年代別)の全国祭典のレベルを引き上げました。また、バドミントンが、山梨大会、福島大会、茨城大会などの出前大会を開催。ミックスバレーボールが、福島県いわき市大会、千葉県印西市大会、広島県大会を成功させました。いわき市では、その後、自主的にミ

### 自治体の後援と市長さんのご挨拶、著名なスポーツ関係者の応援

大会会場となる県や市からは、後援を受けて、ポスターやプログラムに掲載しましたが、それに加えて、開会式に市長さんが出席されて挨拶をされたケースが、ソフトボールの郡山市、ウォーキングの高野町、ミックスバレーボールの鳴門市などでありま

### 活用された横断幕、ポスター、オリジナルメダル、オリジナル賞状

「深めよう絆!スポーツは生きる力」横断幕4本、ポスター1000枚、メダル743個、賞状1500枚がこの全国祭典で使用されています。中でも、今祭典のスローガンを記した横断幕は、大変好評を

### 2013年2月23日 最終実行委員会開催が決定

スキー競技大会を残した状況ですが、来年2月23日の全国評議員会に合わせて、17時~18時半

バドミントン大会35名、登山6名、ウォーキング10名、ソフトボール5チーム、野球1チーム、サッカー2チームにのぼりました。

また、陸上競技大会を主催した全国RCは、各地のロードレースや陸上競技大会などで、参加費の中から100円を支援募金に当て、交通費や宿泊費も捻出しましたし、水泳大会では、例年用意していた優入賞メダルを一切やめて、その費用全額を東北復興支援に当てました。そして、卓球やバドミントンでは、福島での予選大会を開催し、東北からの出場者の参加費を無料にするなどの取り組みも行われ、スポーツを通して、被災地、被災者の一日も早い復興を願う、まさしく「深めよう絆!スポーツは生きる力」のスローガンに沿った全国スポーツ祭典が展開されました。来年3月に行われる「全国スキー競技大会」は岩手県八幡平での開催ですから、さらに東北からのたくさんの選手の出場が期待されています。

ックスバレーボール大会を継続するための地元の実行委員会が組織され、来春からは、年に2回のミックスバレーボールが開催されることになっています。また、北海道中標津での出前大会も全国大会には、直接つながらなかったが、根室管内1市4町に「ミックスバレーボール」の輪が広がり、町おこしの行事になって継続されているなど、出前大会が、スポーツ活動の輪を広げる大きな力になっています。

した。東北復興支援に連帯することや、全国からチームや選手が集まることへのお礼や期待が寄せられています。また、スポーツ関係者からの応援メッセージもよせられ、50年の歴史を誇る全国スポーツ祭典運動の価値を高めています。

得ています。また、ポスターが会場に連なって貼りだされると一段と全国祭典を盛り上げる役割を果たしました。

まで、実行委員会を開催します。各種目の大会の特徴などを深めあいましょう。

## 2020年オリンピック・パラリンピック東京招致について

### 1、新日本スポーツ連盟のオリンピック運動及び招致活動に対する基本的な態度は 次の通りです。

①オリンピックは、スポーツを通じた国際的な平和運動であり、新日本スポーツ連盟は、オリンピズムの根本原則の実現のために活動する。従って、オリンピック競技大会の開催とその成功のために積極的に協力することが基本的な立場である。

②同時に、オリンピック大会の招致活動や開催準備にあたっては、開催の理念、目的、開催計画などについて、独自に検討しなければならない。その際、招致都市の市民の意志を尊重し、大型開発などに利

用する計画ではなく、市民の暮らしと両立する簡素で自然に配慮した計画とすることを重視する。

③招致活動から開催準備まで一貫してスポーツの民主的な発展と国民のスポーツ権の実現に貢献することを重視する。

④オリンピックか都民の福祉・くらしかと両者を対立させて考えるのではなく、オリンピックの価値と目的を実現していく立場から招致の是非や開催再計画を検討する。

### 2、2020年オリンピック・パラリンピック東京招致については、以下の理由で、「異議あり」の立場を表明します。

①都民のスポーツ振興をないがしろにしてきた13年間の「石原都政」には、オリンピック招致する資格がないと考える。

「石原都政」は、スタートから5年間で、都民スポーツの振興費を35%にまで大幅に削減した。その後、オリンピック招致、国体準備、東京マラソンなどの予算は増やしても都民スポーツ切り捨ての施策は変わっていない。こうした、石原都政は、オリンピック憲章の「スポーツを行うことは一つの人権である」に逆行するものであり、オリンピックの開催都市としてふさわしくない。

②申請ファイルの示す理念、目的、開催計画は、前回同様多くの問題点や不備があり、オリンピックの開催にふさわしいとはいえない。

申請ファイルは、2016年の立候補ファイルで批判された明確なごまかしや問題点はある程度手直しされている。しかし、招致の基本理念は、前回同様「20年後の東京」構想にもとづく大型開発事業の推進役とされていることなど、本質的な問題点は変わりがない。そればかりか、メインの競技場を晴

海から霞ヶ丘の国立競技場に変更したことにもない、都営アパートの移転計画を住民を無視して進めていること、既存の競技施設の改修経費がほとんど計上されておらず経費増が避けられないなど、新たに多くの不備や問題点が指摘されている。

③石原前東京都知事は、都民の意見を全く聞くことなくトップダウンで今回も立候補を表明した。申請ファイルの提出の際にも事前に都民に公表さえしなかった。さらには、人種差別発言、女性や障害者への蔑視発言などは、オリンピックがめざす、平和と人権の尊重とは相容れないことはいうまでもない。石原氏が知事を辞職した今、東京都は招致活動からの撤退を含む見直しをもとめられている。

④石原前知事の辞職に伴う都知事選挙に、「無所属脱原発統一候補」として宇都宮けんじさんが「人にやさしい東京をつくる会」から立候補した。その政策の柱のひとつとして、2020年オリンピック東京招致問題については、都民の声を良く聞き、見直しを含む検討を行うことを明らかにした。新日本スポーツ連盟はこの政策を尊重するとともに、都民の討論に積極的に参加し意見を述べていく。

## 第30期第1回評議員会のお知らせ

第30期第1回評議員会を下記の通り開催します。評議員会は、総会に次ぐ決議機関であり、理事会が提案する議案を審議し決定する役割をもつものです。

今回の評議員会は、2012年3月の第30回全国総会後の活動の総括と2013年度の重点方針と計画を検討し決定していただくための会議となります。

評議員並びに役員・理事のみなさんの出席をよろしくお願い致します。なお、評議員は「各連盟組織の代表」としての性格を持っていますので、本人が出席できない場合は、必ず、「代理出席」の手配を行なってください。

2月23日午前10時から三役会議、12時から14時まで第3回理事会を行なうため、スタート時間は14時30分からになります。また、2月23日17時から第29回全国スポーツ祭典第2回(最終)実行委員会をおこないます。評議員・理事・役員の方も参加をお願い致します。

記

日時 2013年2月23日(土) 14時30分～17時00分  
 17時00分～18時30分(全国スポ祭実行委員会)  
 19時00分～21時00分(懇親会予定)  
 2013年2月24日(日) 9時30分～16時00分  
 会場 東京都内(2013年1月7日までに確定し連絡致します)  
 出席対象 ①評議員または各全国種目組織および都道府県連盟を代表する役員  
 ②理事 ③会長、副会長 ④監事

### 学習会

原発ゼロは可能か?

—日本のエネルギー政策のあり方について—

2012年12月9日(日)第3回理事会の後に開催した。この学習会では、日本科学者会議原子力問題研究会で活動されている館野淳先生をお招きして、脱原発の可能性と道筋について、理事・役員の29名がその科学的知識を学んだ。

館野氏は、『福島事故と原子力の今後』というテーマで、約1時間の講演をされた。原子力発電の特徴と原発の構造を解説、福島原発事故の経過を説明し、今後の原子力について語った。「今日の原子力の抱える二つの技術問題。一つはシビアアクシデント問題。二つ目は高レベル廃棄物(使用済み燃料)の処分問題。この二つの問題が解決するまでは、原子力利用は中止すべき(脱原発)」と力説。

#### シビアアクシデントの定義

「設計基準事象を大幅に超える事象であって、安全設計の評価上想定された手段では、適切な炉心の冷却または反応度の制御ができない状態」

エネルギー供給と消費についても触れ、「原発停止の場合の最大電力需要(2005～2010年)発生時には、関西電力を除いて日本全国の電力会社に余裕はある。関西電力も他の電力会社から供給を受ければ対応出来る」と語った。

### 第30期全国会議及び主要事業予定一覧 (～2013年3月上旬)

月日	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
<b>[2013年]</b>		
1月	6日	全国縦断新春マラソン(大阪、福岡)
	13日	全国縦断新春マラソン(神奈川、愛知、和歌山、兵庫、北九州)
	31日	第1回評議員会の出欠、現勢報告、活動報告の締切日
2月	1日	スポーツのひろば3月号の発行
	9日	関東ブロック会議
	16～17日	労山臨時総会
	16～17日	全国スキー協カッパ
	23～24日	30期第1回評議員会・第4回理事会
3月	2～3日	全国スポーツ祭典スキー競技大会
	4日	スポーツのひろば4月号の発行
	9日	第48回東京都連盟総会

### 東北復興支援 「義援金」報告

2012年11月29日 (第3回理事会資料より)

義援金募金 2011年3月～ 全国連盟口座への振り込み分

A義援金(スポーツ連盟支援募金) * FSGTからの支援募金の合計 890,011円を含む	募金 合計	8,470,075円
B義援金(公的機関への募金)	募金 合計	178,976円
2011年12月8日朝日新聞厚生文化事業団へ送金		

### A義援金(スポーツ連盟支援募金) 充当状況 2011年3月～

被災者お見舞金	3,620,000円
宮城県・岩手県連盟支援金(活動支援、事務所維持支援)	1,483,270円
東北連盟支援金(全国分担金、「スポーツのひろば」誌代)	827,179円
行事・競技会、ボランティア活動への支援金(2012年3月～)	882,765円
充当 合計	6,813,214円

募金 残高 1,656,861円

多くのご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。